

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム 倫尚園 Aユニット		
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東3丁目11番1号		
自己評価作成日	令和2年1月7日	評価結果確定日	令和2年2月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム倫尚園は、福智山を望む自然豊かな環境の中に建つ特別養護老人ホーム、養護老人ホームとの高齢者複合施設の1階に位置しています。2階のホールでは、3施設合同の餅つきや運動会、敬老会等があり、地域の方々との交流も行っています。その他、出張売店や大谷稻荷神社の行事の場やグループホームの夏祭り等の大きなイベントの会場として活用しています。グループホーム内では食堂や座敷、談話コーナー等一人ひとりを尊重し、くつろいでいただける空間づくりの他に、広々とした庭園で四季折々の山々を眺めながら車椅子でも気軽に散歩したり、気候の良い時期にはおやつを提供など野外での活動にも工夫を凝らし、利用者の「暮らしの場」として潤いと豊かさ、プライバシーに配慮した家庭的な生活環境を提供しています。また、家族との関わりを大切にし、食事を家族参加の行事を定期的に行っています。職員は「認知症」に対する理解を深める為、職員間での勉強会、市の認知症講習に参加し、知識や技術の向上を目指し、連携を保ちながら利用者が安心安全な暮らしができるよう努めています。令和2年1月より医療連携体制を整備し医療機関との連携を強化し、利用者の健康管理の充実を図るよう努めています。校区の中学生の職場体験や職業説明会、高校生の介護実習の受け入れも積極的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設の1階に開所したグループホーム倫尚園は、基本理念や基本姿勢を機会ある毎に共有、ゆっくりとした入居者本位のサービス提供に努め、入居者のペースでの生活が日々展開している。誕生日に願いを叶える取組みが継続し、寿司バイキングやお好み喫茶、クッキングで食を楽しむ機会を設け、お好み焼きは毎回「初めて食べた」と好評である。また、排泄介助を受け入れてもらえなかった入居者の排便回数やリズムのパターンを観察し、「ちょっとそこまで」等の声かけで2ヶ月で失禁がなくなり、トイレでの立ち上がりができるまでになっている。2階のコミュニティホールは地域交流の拠点として、地域の方の参加で各階合同の運動会や敬老会、餅つき大会が開かれ、ひな壇や下げもんが華やかに飾られた中で体操が行われている。職員は年度初めの全体会議で事業計画を話し合い、其々が各プロジェクトに所属し、福利厚生の実現や職員の希望に応じた勤務体制で、理念の具現化に邁進している。今後も家族会や運営推進会議の理解や協力を得ながら、地域に密着したサービスの展開が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **Aユニット/グループホーム倫尚園**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は管理者・職員共に共有し、新人職員に対しては入社後に理念について説明・指導を行っており、また理念を見やすい場所に掲示している。	グループホームの基本理念や基本姿勢を機会ある毎に共有している。ゆっくりとした入居者本位のサービス提供に常に努め、入居者のペースでの生活が日々展開している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治区会に入っており、子供食堂の導入や町内の清掃、行事に参加したり施設の行事に地域の方々を招待し交流を図っている。また、校区の中学生の職場体験、高校生の介護実習の受け入れを行っている。	2階のコミュニティホールで、地域の方の参加で各階合同の運動会や敬老会、餅つき大会が開かれ、地域交流の拠点となっている。調査日は、ひな壇や下げもんが華やかに飾られ、講師の掛け声で体操が行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、施設の行事時には認知症についての理解や支援の方法等を説明したり、行政による認知症啓発のパンフレット・広報誌等を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告や入居者の動き等について報告し、参加者の方々より意見を出して頂き、サービス向上に活かしている。	2階の地域密着型特養と合同で、家族や入居者、地域代表等の参加で開催され、議事録は玄関で公表している。行事や医療連携、新入居者などを報告している。事故やヒヤリハットは、年度末に集計し、対応策を盛り込んだ次年度方針を報告している。	運営推進会議設置目的に鑑み、定期的に発行されている広報誌「ふれあい」で、会議の案内や報告を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員の参加もあり、地域や在宅の状況等積極的に意見交換を行っている。また、北九州のグループホーム連絡会に参加しており、今後は参加回数を増やしていきたい。	毎月地域包括支援センターに居室情報を提供し、入居者の紹介を受けている。同業者連絡会は、グループホームの現状や食事摂取などケアに関する工夫などの課題や情報を交換する場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県の「身体拘束ゼロ宣言」に登録しており、施設内研修や身体拘束等適正化委員会を3ヵ月毎に開催している。また、外部の研修にも参加し、身体拘束についての具体的なケアを理解し取り組んでいる。	複合施設の各セクション代表で構成する身体拘束適正化員会は、エマニチュードを取り入れたケアを推進したり、内部だけでなく外部の研修会にも参加し、伝達研修を行っている。「待つて」など、言葉による拘束についても理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については施設内研修や推進プロジェクト、外部での研修に参加し、学ぶ機会を作り、職員間で情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での研修、推進プロジェクト、外部の研修等に参加し、家族より相談を受けた時には対応できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を開催し、内容やその違いを周知している。制度活用を検討した経緯もあるが、経済的理由で活用には至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面に沿って説明し、不明なことは理解、納得されるまで十分に説明を行っており、納得をいただいた上での契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、意見・要望をその都度聞き、改善や運営に取り組んでいる。オンブズパーソンの来園が2か月に1度あり第三者の意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。	年3回開催している食事会を兼ねた家族会やホーム主催の夏祭りへの参加も多く、意見を伺う機会としている。医療連携や終末期の在り方を説明し、意向確認書を取り交わしている。また、定期的にサービス内容を熟知したオンブズパーソンから評価を受けている。	家族会の開催回数や参加者も多いことから、家族だけの時間を設けたりアンケート等で意見を表出できる企画で、更なる意見の反映を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度初めの職員全体会議では事業計画を報告し、職員の意見等を聞く場を設けている。また職員の積極的な意見交換が行われ運営の反映や改善に努めている。	年度初めの職員全体会議で、前年度の事故などの集計や対応策を盛り込んだ事業計画を話し合っている。又、業務内容については、2ヶ月毎のミーティングや業務の合間で、率直な話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、やりがいや意欲向上の為にフレッシュ休暇や福利厚生充実の取り組み、働きやすい職場環境に取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、法人として行われ、性別や年齢等による排除はしていない。定年後も働ける体制を整えたり職員一人ひとりの能力や要望を考慮し、施設内での異動やユニット替え、柔軟な勤務形態で対応し、個々の能力が発揮できる環境づくりに努めている。	法人で採用された20歳代～70歳代の職員が就労している。勤続5年毎にフレッシュ休暇等の授与、年2回の慰労会や、産休や育休の取得、個々の職員の希望に応じた勤務体制が構築され、外部の1泊研修や新任研修に参加している。全職員が各プロジェクトに所属し、資格取得に励んだり、展示物のイラストに能力を発揮する職員もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修や外部研修およびプロジェクトにて学ぶ機会を作り、勉強会でも具体的に話し合いを行い取り組んでいる。	年間研修計画に沿って年4回人権擁護に関するプロジェクトが立ち上がり、人権研修が実施され、理念に謳った尊厳を保ち安心した生活の保障に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画を立て実施を行い、外部の研修にもできるだけ参加できるようにしている。また、新人研修をその都度個別に行い技術、知識の向上を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福祉関係の職員と交流を行い、意見交換をしてサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で、本人が不安を感じていること等を傾聴し、フェイスシートをもとに職員・本人と共に検討し安心して生活ができる関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に家族の置かれている状況、利用内容や不安感をしっかり聴き取り、信頼が深まるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込時から本人、家族と面談を行い担当ケアマネージャー、医療機関等から情報を把握し、カンファレンスを実施して良いサービスができるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をする中でお互いに学び支え合う関係づくりに努め、人生の先輩である利用者からも多くの知識を得て共に暮らす関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や行事の参加等、家族の協力を得て本人を支えていく関係を築き、お祝い事にはその家族全員に声をかけ協力して頂く等、家族と一緒に本人を支援する家族の絆を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会の方々との繋がりを大切にされてきた本人を教会にお連れしたり、当ホームに入所された後もお中元やお歳暮を送りたいという方には、カタログから注文できるよう支援し、馴染みの人との関係が継続できるように努めている。	教会に通うことが難しくなり、月1回信者の方2名の方が来訪される入居者もある。食事会の催しで久しぶりに一緒に食事ができたと喜ばれる家族もあり、家族と一緒に祝ってもらいたいと、白寿の衣装を職員が手作りしている。家族と外出したり、馴染みの美容院に出かける入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は様々だが、誰一人孤立しないようデイルーム、食堂、座敷での座る位置や人間関係等配慮しうまく交流が行えるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退去になっても職員が面会や見舞いに行ったり、家族と手紙のやり取りや行事に誘ったり、相談を受けたりと、必要に応じて関係継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時等に本人や家族より思いや希望を確認している。その一環として誕生日に一人一人の夢や希望を叶える取り組みを行っている。	生活歴を背景とした支援を基本姿勢として、職員を入居者1～2名の担当として、思いや意向の把握に取り組んでいる。誕生日に願いを叶える取組みが継続し、〇〇を食べたいや飲みたい、宝くじを買いたいなど、笑顔になる願いを実行している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者には本人の思いを汲み取り、生活歴、サービス利用者の把握により馴染みの生活用品等も持ち込んで頂き安心した生活ができるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態、生活リズム、残された機能を把握し勉強会等で話し合いをし個々のケアに取り努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を第一に、主治医や介護者の意見も反映させながら、残存機能を生かした日課等一人ひとりの状態に応じたケア実践に向け、介護計画を作成している。	定期的なケアカンファレンスで、入居者の意向や担当職員の気づきなどを話し合い、より現状に即した介護計画の作成や見直しをしている。毎日読経する入居者もあり、毎日の生活にメリハリをつける声かけや支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン計画チェック表、個別サービス管理表、生活支援記録、介護活動チェック、健康管理表等の記録を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特色を活かし集団検診や出張売店、四季に応じた外出支援や行事に取り組んでいる。また、訪問看護との連携体制も整備している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	複合施設としての利点を活かし、校区内の小学校、幼稚園との交流、中学校の夢授業への参加、地域住民のボランティア、地区春秋祭りの氏神様へのお参りや市民センターでの福祉祭りなどに参加し、地域の資源で暮らしを豊かにできるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医との個別受診、経過記録を作成している。在宅医療を活用し内科、皮膚科、歯科、眼科往診等、往診前日にFAXで情報提供し、当日は付き添いを行い支援している。	熱発等の変化は管理者が窓口となり主治医に報告していたが、今年度より、訪問看護ステーションとの医療連携で、より適切な医療受診を支援する予定である。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設内に看護師が常勤しており、緊急時には相談・対応も依頼できるように体制が整えている。今年より、訪問看護との医療連携体制を整備し、医療に関して連絡・相談ができるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会し、家族または医療関係者との情報交換を密に行い、要望があればカンファレンスにも参加し、状態の把握に努め早期退院できるように連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化ケア、看取り介護指針を作成し、家族一人一人に説明、同意を得て、訪問看護と協力して医療連携体制を整備している。今後は重度化、看取りに向け取り組んでいく。	重度化及び看取りに関する指針を家族に説明し、終末期における同意書を家族と取り交わしている。ホームでの看取りを希望する家族もあるが、医療機関への搬送希望もある。今後は意向に沿った看取りを支援予定で、プロジェクトを立ち上げターミナルケアの研修に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署より救命についての実践講義や勉強会等で定期的に訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設として定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施している。また防災計画のマニュアルに沿って風水害、地震、火災等の避難訓練を入居者家族、地域の方々の協力を得て行うようにしている。運営推進会議では、地域の方々に協力を得られるように働きかけている。	複合施設として日中と夜間想定で年2回避難訓練を実施し、運営推進会議で報告している。市指定の避難場所までは距離があり、園庭での避難に家族や地域の方に協力をお願いしている。年に1回の救急救命研修や、3日分の食料の備蓄をしている。	昨今の異常気象から、入居者に関する持ち出し書面の検討を期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内での研修、推進プロジェクト、勉強会等において意識付けを行っており、プライバシーの確保、言葉かけに配慮しさりげないサポートを心掛けている。また、個人情報書を作成し、対応について理解を得ている。	入居者の人格を尊重し、「今日の体調はどうですか」と声をかけ、自己選択や自己決定を支援している。調査日は、視線を合わせた穏やかな声かけで歯磨きやトイレに誘導していた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から日常生活や会話の中で自己決定ができるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でゆっくり過ごされる方もいらっしゃるが、食堂でテレビを観られる方もいらっしゃる、本人のペースや希望を重視し、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人に選んでいただき、意思決定ができない方はその方に似合ったものを選び支援している。化粧、髭剃り等自身でできる方に関しては自由にいただいている。また、出張理美容に来ていただき、希望時にカットやカラー、パーマ、顔そり等されている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けやお米とぎ、配膳等それぞれの意欲や残存機能を活かして手伝って頂いている。又、誕生日会、寿司バイキング、お好み喫茶、クリスマスや元旦等の食を楽しむイベントを多く取り入れている。	食事は複合施設の2階厨房で調理されるが、月1回の寿司バイキングは好評で回数を増やしてほしいとの希望もある。お好み喫茶では3～4種類の飲み物等を用意し、月2回のクッキングのお好み焼きは返し役などの役割を決め、毎回「初めて食べた」との感想があるなど、食を楽しむ機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	複合施設として調理は厨房で栄養士により栄養計算した献立を提供している。刻み食や糖尿病食、減塩食等、一人ひとりに応じた食事の提供を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できることは本人にしてもらいながら口腔ケアを実施している。訪問歯科の先生より指導を受けたり、治療をして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成して、目安となるパターンの配慮に努めている。しぐさ誘導も行うが、排泄時の声掛けには十分配慮している。	リハビリパンツの交換を受け入れてもらえなかった入居者の排尿回数やリズムのパターンを観察し、「ちょっとそこまで」等の声かけで顔馴染みとなり、2ヶ月で失禁がなくなり、トイレでの立ち上がりができるまでになった方もある。各ユニットに3ヶ所トイレが設置されているが、行きつけのトイレ使用を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤だけに頼らず、適度な運動や乳製品、水分を細めに提供し、腹部マッサージをして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は24時間入れる温度に設定しており、朝一番に希望される方、1人で個浴を楽しまれる方、気の合う方と入浴される方等、一人ひとりに応じた入浴を行っている。	桧の浴槽が設置された広い浴室が整備され、週3回の入浴を支援している。一番風呂の希望を叶えたり、2～3名で入浴したり、お好みのシャンプーを使用する入居者もある。笑いながら入浴するなど、楽しい雰囲気づくりをしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動、就寝時間等一人一人の状態や生活習慣に応じて対応し、安眠できるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして全スタッフが見れるようにしている。副作用のある食べ物は代替にて提供している。服用後の異常等あれば主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	飲酒や編み物、木目込み、ぬり絵、パズル等本人の楽しみを大切に、継続できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い外出支援が困難になってきているが、福祉車両を使用し、車椅子の方でも出来るだけ外出できるように支援している。初詣や花見、ドライブ等季節を感じる外出や自由に園庭を散歩でき外気に当たれるように心がけている。	広報誌「ふれあい」には園内外の散歩で、季節の桜やチューリップ、コスモス見学、外食の折の笑顔のスナップが掲示されている。訪問調査時、「買い物に行きたい」と調査員に話す入居者もあり、外出の意義を理解した支援が継続している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には自分で所持していただき、ショッピングや毎月の出張売店等で支払いをしていただいている。他の方々は、支払い時にその場で手渡し払って頂くようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には公衆電話まで誘導し、会話ができる様に支援している。又、携帯電話の管理ができる方には所持していただき、居室で通話してもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくため四季の草花や壁面を飾ったりしている。座敷には堀ごたつやマッサージチェアがあり、利用者がゆっくりとくつろげる雰囲気づくりをしている。玄関ではメダカやカメを飼っておりペットの世話をする日常を感じられるよう工夫している。	出入りの多い2階のコミュニティホールはひな壇や下げもんが華やかに飾られ、ホーム玄関は夜桜の貼り絵や水仙が飾られている。リビングのお雛様の貼り絵や廊下のイラスト付きの昔話に心が和み、園庭を眺められる畳コーナーは、家族と共に誕生会が開催されている。空調が管理され、季節柄、除菌の配慮などでゆったりと寛げる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話コーナー、座敷等で利用者同士で思い思い語り合ったり、座敷に設置しているマッサージ機を使用したりとゆっくりと過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や仏壇、思いのある物を持ち込んで頂き、家庭での生活をそのまま過ごせるような居心地のよい環境づくりを心がけている。	電動ベットやクローゼットが備え付けられた居室は整理整頓され清掃が行き届いている。どの居室も外出時や誕生会の写真が掲示された木枠や誕生日カードが飾られ、十字架や鏡台、仏壇などが持ち込まれるなど、入居前の暮らしの継続を支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り残存機能を生かした生活をしていただいている。施設内の手すり、起立する為の安全バー、居室トイレの表札、トイレ等も大きな字で表示し混乱のない様に工夫をしている。		